

平成 28 年度第 65 回全日本大学サッカー選手権大会

展望

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM NO.4

発行：一般財団法人 全日本大学サッカー連盟

内藤悠史・森田将義

◆ 準々決勝 ◆ 12 月 12 日(月)

◇ 町田市立陸上競技場

【17】 関西学院大学 1(3PK4)1 日本体育大学

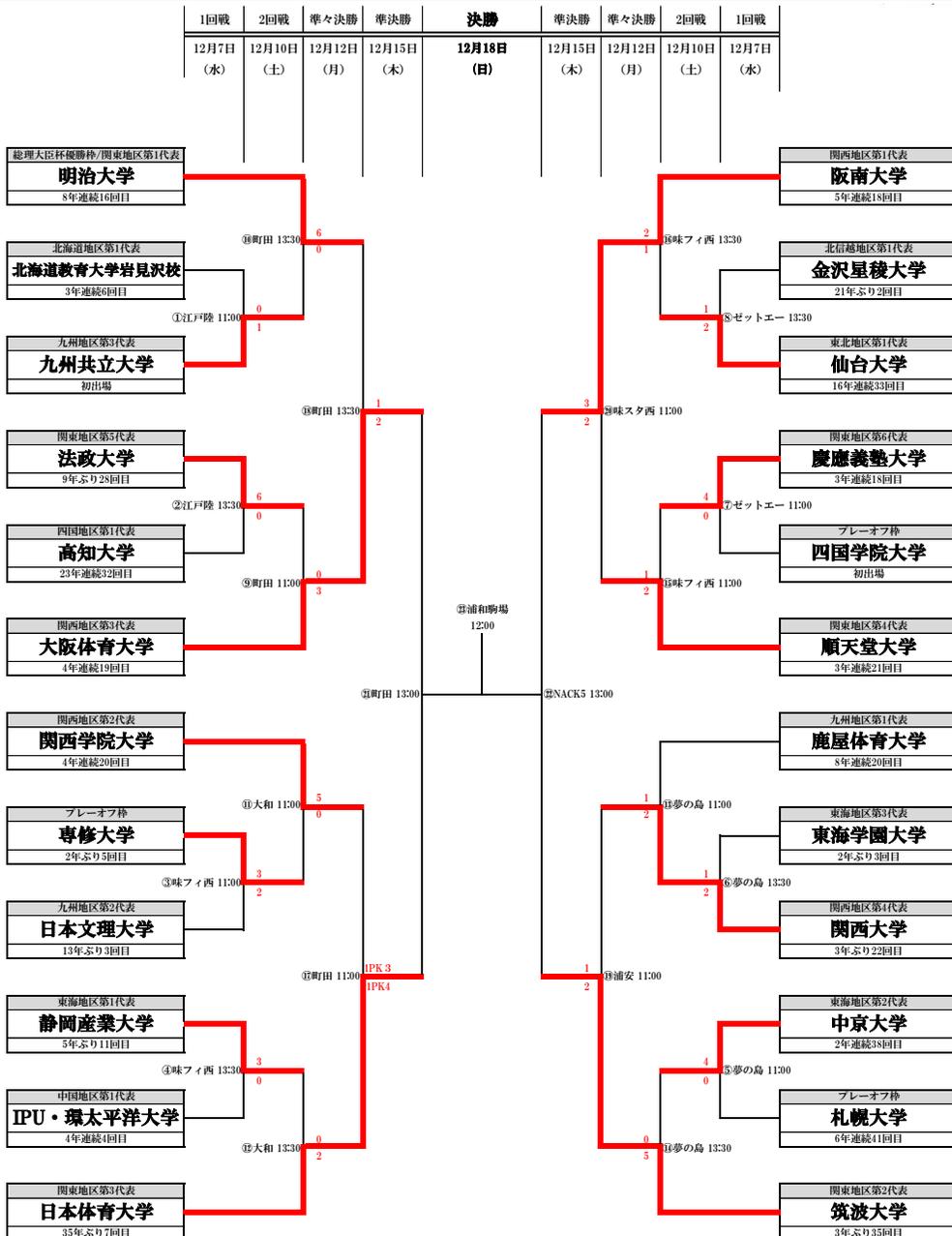
【18】 明治大学 1-2 大阪体育大学

◇ 浦安市運動公園陸上競技場

【19】 筑波大学 2-1 関西大学

◇ 味の素スタジアム西競技場

【20】 順天堂大学 2-3 阪南大学



大阪体育大学 vs 日本体育大学

12月15日(木) 13:00
町田

総理大臣杯と関東リーグを制した二冠王者・明治大学との準々決勝を、2-1と競り勝った大阪体育大学。19分にMF後藤虹介(4年)、30分にはMF池上丈二(4年)が得点を決め、前半で2点をリードした。後半立ち上がりには1点を返された後は明大の猛攻を受ける時間が続いたものの、最後まで集中力を切らさずに逃げ切った。

気迫に満ちた空中戦を繰り返したDF菊池流帆(2年)は試合後、笑顔を見せつつ、「うまくいっていますね」と第一声。2回戦に続いて先手を取れたことに自信を見せた。法政大学との2回戦の後、坂本康博総監督は「相手はパスを回すか速いボールを入れるか、中途半端だった」とコメント。そして準々決勝後、明大DF河面旺成(4年)は「単純にクロスを入れてもDFに弾かれる。それで下から(パスを)つなぐことを意識し過ぎてしまった」と振り返っている。「大体大は競り合いに強い」という強烈な印象を植え付けているからこそ、対戦相手が攻撃のリズムを崩していると言える。準決勝でも優位に立って試合を進めたい。

対する日本体育大学は、準々決勝で前回王者・関西学院大学と激闘を繰り広げた。MF小泉将来(4年)のPKで先制したものの、5分後にカウンターから失点。1-1のまま延長戦でも決着がつかずPK戦を4-3と制した。鈴木政一監督は「1-0で終わらせないといけない」と、失点を反省。2点目を奪えなかったことも課題だが、決定機の際は相手を上回った。MF高井和馬(4年)がチーム最多4本のシュートを放って存在感を示せば、FW瀧本高志(2年)も鋭い動き出しで最終ラインの背後を取り、チャンスを演出。準決勝でも期待できそうだ。

総理大臣杯に続くベスト4進出で、チームの士気は高まっている。鈴木監督は「選手たちにはプレッシャーはないようで、楽しんでいる」と明かし、「昔とは違う」と笑う。今大会で大体大に敗れた法大と明大は、相手を警戒するあまり攻撃のリズムを崩してしまった。日体大は“いつも通り”のサッカーで真っ向勝負を挑み、先手を取りたいところだ。(文・内藤悠史)

	31 立川		大体大
6 平田	5 秋山	4 菊池	2 太田
	8 後藤	28 田中	
10 池上			11 末吉
	26 古城	24 大田	
	11 太田	30 瀧本	
10 高井			7 川戸
	6 小泉	4 輪笠	
13 山崎	5 ンドカ	29 大畑	25 田宮
日体大	12 福井		

筑波大学 vs 阪南大学

12月15日(木) 13:00
NACK5

両者、戦いに挑むための準備はできている。筑波大学は2回戦から中1日という日程を考慮し、準々決勝の関西大学戦ではMF松村遼(3年)とMF西澤健太(2年)をスタメンに抜擢。フレッシュな2人の働きにより、ボールを保持する戦いを進めたが、「この試合は我慢の試合だと思っていた」(小井土正亮監督)との読み通り、ゴールが奪えない。残り10分を切ってからMF三笥薫(1年)と、87分にFW中野誠也(3年)がゴールを奪ったが、「今は中野の調子がいいので、全員が中野しか見ていない。中野にばかり頼ってしまう」(小井土監督)という課題も見える一戦となった。決勝進出の鍵となるのは、得点へのルートを増やせるかにかかっている。

一方、準々決勝で順天堂大学と対戦した阪南大学は前半に決定機を活かせず、自分たちのミスから2点を失った。しかし、ハーフタイムの須佐徹太郎監督の「後半の立ち上がり15分で流れを変えろ」という指示に対し、選手たちは「10分でケリをつける」という言葉を残して後半に挑むと、わずか11分で逆転に成功。終盤は順大の猛攻をきっちり跳ね返し、勝利を掴んだ。「今日の勝ちは大変大きい」とFW前田央樹(4年)が口にしたように結果以上の価値は大きく、MF脇坂泰斗(3年)は「失点から崩れる試合も多かったけど、ハーフタイムで良い雰囲気を保てた。失点は全て自分たちのミスから。ミスをなくせばゲームは楽に進めると思う」と口にする。

これまで数多くの全国大会を経験している両大学だが、公式戦で対戦するのは2003年のインカレ準決勝以来2度目となる。当時、筑波大はMF藤本淳吾(現ガンバ大阪)、阪南大はMF梁勇基(現ベガルタ仙台)という攻撃の絶対的な存在を擁しながらも均衡は崩せず、無得点のままPK戦で筑波大が勝利をおさめた。筑波大は続く決勝戦で駒澤大学に勝利し、2連覇を達成。当時と同じように準決勝を制したチームが頂点まで駆け上がることができるか、注目だ。(文・森田将義)

	30 阿部		筑波大
14 会津	5 鈴木(大)	3 小笠原	17 野口
	6 鈴木(徳)	8 吉田	23 松村
25 西澤		16 戸嶋	
		11 中野	
	13 前田	15 草野	
17 山崎	14 脇坂	8 重廣	10 山口
3 吹ヶ	4 大野	5 甲斐	23 大本
阪南大	1 黒木		